

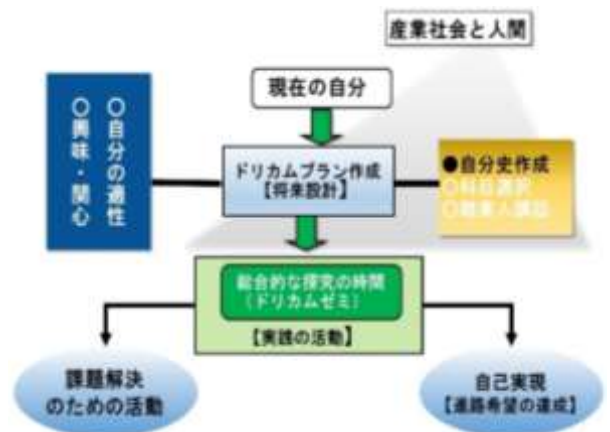
I. 「ドリカムプラン（将来設計）」作成への取り組み（1年次：産業社会と人間）

1 「ドリカムプランとドリカムゼミ（総合的な探究の時間）」

1年次の「産業社会と人間」では、「自分史作成」「科目選択」「進路ガイダンス」「職業人講話」など様々な活動を通して、これまでの自分の生き方や、これからの自分の将来について生徒に考えさせている。これらの活動の中で学習したことを振り返りまとめるのが、将来の自分の在り方を見つける活動としての「ドリカムプラン＝将来設計」作成である。

その後、2年次の「ドリカムゼミ」においては“総合的な探究の時間”の趣旨を活かし、生徒個々の実態に応じて生徒自らが課題を見つけ、自ら学び主体的に判断して問題を解決する能力を養うように支援している。これらは、志教育の根幹部分であり、それは総合的な探究の時間の目標にある「～自己理解と自己実現を図り、進路希望の達成を目指して課題を解決していく力を養う」をもって生徒の実践に結びつけるモデルを成している。

【右図参照】



【迫桜高校の志教育モデル】

2 「産業社会と人間（社会人講話）」について

1年次の「産業社会と人間」では自己の在り方や生き方について考え、将来の社会生活や職業生活に必要な意欲や態度を身につける。今回は社会人講話をいただき、社会の一員として生きることを自覚させ社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度、及び望ましい勤労観、職業観を育むため、職種が違う4名の講師の先生方を招き、4回実施した。

6月15日は伊藤ハムウエスト（株）前専務取締役、現在は本校の講師として授業を受け持っている千葉恒雄先生から「社会で必要とされる人材～高校生活は、社会に出るための準備期間～」と題して講話をいただいた。

「高校時代に失敗や挫折で学んだことを生かして、大学進学を決意し志した。大学での就職活動においては、不採用が続き、最後の望みをかけて学生服姿（詰め襟制服）で就職試験に臨んだ。なぜリクルートスーツでなく学生服だったのか・・・自分自身を知ってもらうため、特徴のある学生と思ってほし



かった。」当時の人事担当者から認めてもらい翌年に伊藤ハムに就職、人事部に配属され、採用に従事し多くの方と面接をしてきた経緯についても話していただいた。

Ⅱ. ドリカムⅡへの取り組み（2年次：総合的な探究の時間）

5月26日のドリカムⅡの時間は、2年次生を対象に「社会で求められる力」をテーマに実施した。個人の力（学習・生活・性格）を分析するために講師として（株）ベネッセコーポレーション東北支社長 張乙清さんを招いて講話をいただいた。本来であれば視聴覚教室（迫桜ホール）での分析であったが、感染予防対策のためクラスごととなった。



2年4組を拠点として1組～5組まで ZOOM 配信され講義と分析が行われた。

自己紹介によると、甲子園出場常連校でバリバリの高校球児であった。しかしレギュラーではなかったが部員としてできることをチーム一丸でやり遂げたことが大きな力になっているとのこと。さらに同級生には有名な俳優さんと勉学をともにした・・・などユーモアに富んだ自己紹介であった。



○基礎力診断テストを振り返り
現在の学びの力は・・・
昨年度と比較して・・・
これまでの学びの力が、どこまで到達できたか、さらに深めなければいけないことは何か考える時間であった。

○社会で求められる力とは
基礎学力とは・・・
誇りある実績・・・
困難に乗り越えた経験・・・
自信の強みとエピソード
それぞれ自分を分析して高校生活の中で「ひとつ上を目指す」迫桜生になることを願う。